

# 令和5年度 学校自己評価のまとめ

総数13名（職員5名 こども環境科6名 介護環境科2名）

4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切

## 1 教育理念・目標

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目標 育人材像（専門分野の特性の明確化）	職	3	2	0	0	3.6	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	1	0	0	3.5	
職業教育の特色の明確化	職	3	2	0	0	3.6	3.5
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	1	0	0	3.5	
社会経済のニーズ等を踏 まえた学校の将来構想	職	2	2	1	0	3.2	3.1
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	0	1	1	0	2.5	
理念・目的・育人材像・ 将来構想などの学生・保 護者等への周知	職	1	4	0	0	3.2	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	1	0	0	3.5	
各教科の教育目標、育人 材像の学科等に対応 する業界のニーズに向 けての方向付け	職	1	3	1	0	3.0	3.0
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	0	1	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がった。4つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは1つの項目だった。

○「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想」「理念・目的・育人材像・将来構想などの保護者や学生への周知」「各教科の教育目標、育人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向性」は低い評価とはなっていないが、充実に向けて取り組んでいきたい。

## ・評価によって表出した課題と改善策

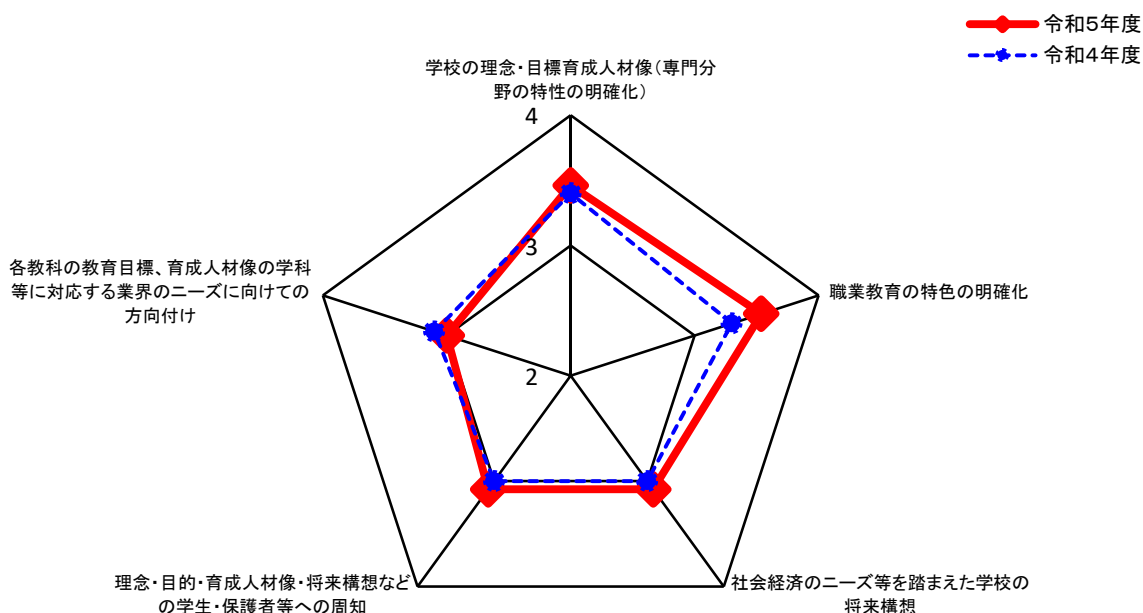
◎入学式後の保護者説明会（教育理念・目標の周知等）を継続実施するとともに、ホームページの充実を図る中で学校の考えや思いを日常的に発信することができた。

◎学校の教育活動が社会のニーズにより適合していくように取り組んでいきたい。

◎学校の将来構想をより明確にし、教職員間で共有していきたい。

◎現代のニーズ、課題への対応を再確認して進めていければと思います。

◎育人材像について、地域の求める、また国の求める人材像と照らし合わせて、現実的な方向性を話し合う中で見出していけたらと思う。



## 2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針の策定	職	3	1	1	0	3.4	3.2
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	1	0	0	3.5	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	3	1	1	0	3.4	3.2
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	1	0	0	3.0	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	2	2	0	1	3.0	2.8
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	1	1	0	2.5	
人事・給与の規定の整備	職	2	2	1	0	3.2	3.0
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	2	2	1	0	3.2	2.9
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	0	2	0	0	3.0	
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	職	2	3	0	0	3.4	3.2
	こ	1	3	1	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	
教育活動等における情報公開	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	
情報システム化等による業務の効率化	職	0	4	1	0	2.8	2.6
	こ	1	2	2	1	2.5	
	介	0	1	1	0	2.5	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに上回ったもののほぼ同数値であった。4つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは1つの項目だった。

○「意思決定機能・システム」と「ティール運営」の関わりに視点を当て進めていくことが課題である。

## ・評価によって表出した課題と改善策

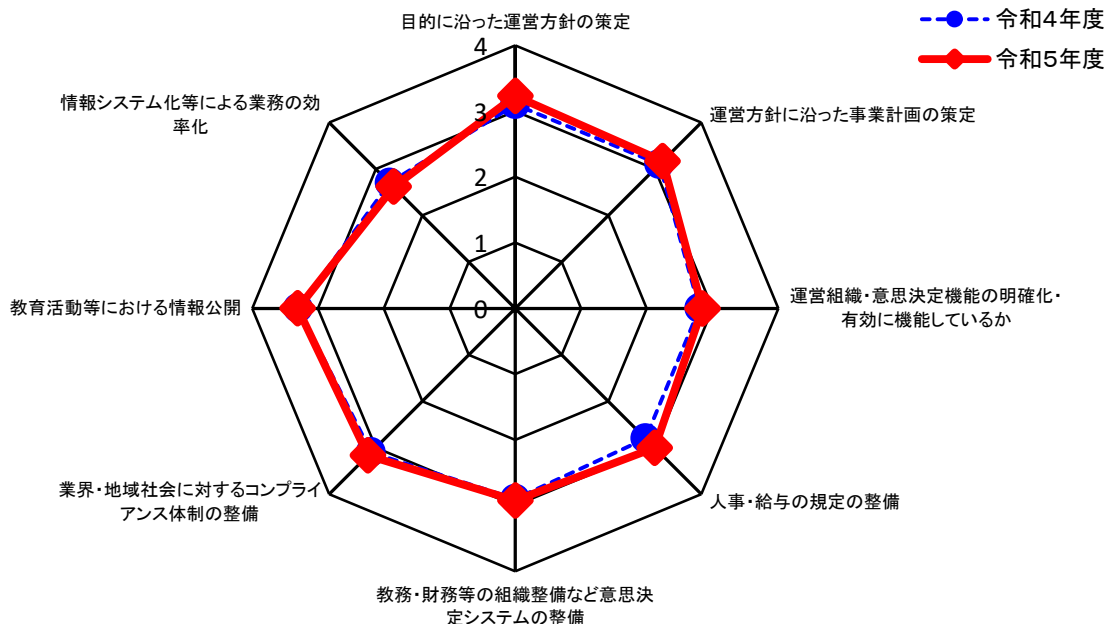
◎ティール運営については、本校なりのとらえ方での取組が定着してきた。目指すものを確認し合い、相互理解を図りながら充実に向かっていきたい。

◎本校の役割がより社会に認知され、補助金、学生募集の協力など、厚くて広い行政等の協力があればよいと思います。

◎様々な立場の人がそれぞれ意見を持っているので、トップダウン体制とはいかなくとも意思決定できる人を明確にした方が良いのではと感じることがしばしばあります。

◎对学生でも教職員でも、関わりのあり方を考え、尊敬し合いながら、より良い学校にしていくことを大切にしていきたい。

◎教育に重点をおいて考えていけるように、組織運営の方向性が定まっていけばよいと思う。そのための組織、システムが整っていけばと思う。



### 3 教育活動

#### (1) 教育課程

		4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	2	3	0	0	3.4	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	1	0	0	3.5	
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	2	3	0	0	3.4	3.2
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	1	0	0	3.5	
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	2	3	0	0	3.4	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに上回ったもののほぼ同数値であった。2つの項目で昨年度を上回っており、下回った項目はなかった。

○13の大項目の中で上位(3番目)の評価結果で、全体を通して概ねよい数値となっている。更なる充実を図りたい。

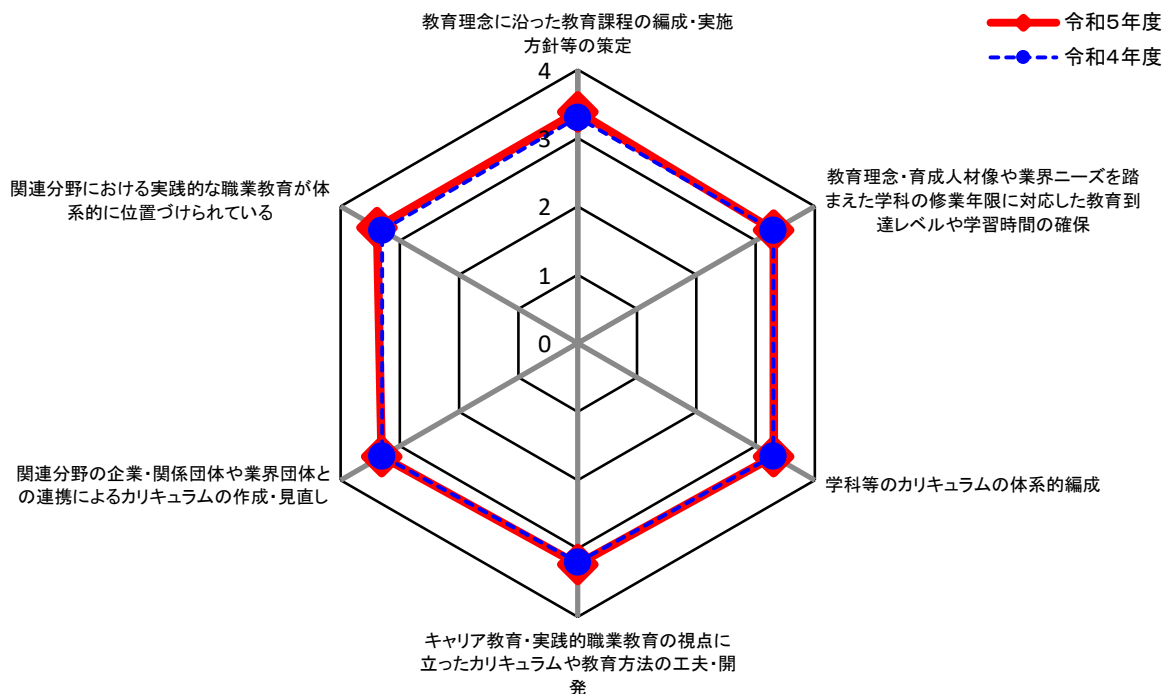
#### ・評価によって表出した課題と改善策

◎新型コロナウイルス感染症の扱いが5月から変更になったことから、企業等との連携は回復傾向にあるものの、収束に向かっていないことから、コロナ禍前のような状況にまでは至っていない。しかし、今年度も企業等の温かな対応(数多くの受け入れ等)により学習活動を進めることができた。心から感謝したい。

◎概ね良いと思うが、授業担当者の企画力に頼る部分が多いので、学科としての教育の質を上げていきたい。

◎インターンシップ等、企業との連携を意識して作成されている。

◎学生の修得状況に合わせ、実践経験による振り返りが必要と思われ、さらに体験を重視した学習を施設に協力お願いし進めていくことで、実習の学びを有意義なものにしていきたい。



(2) 指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	3	2	0	0	3.6	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	1	0	0	3.5	3.4
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	3.5
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	1	4	0	0	3.2	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	1	0	0	3.5	2.9
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	3.3

網掛けは前年度平均

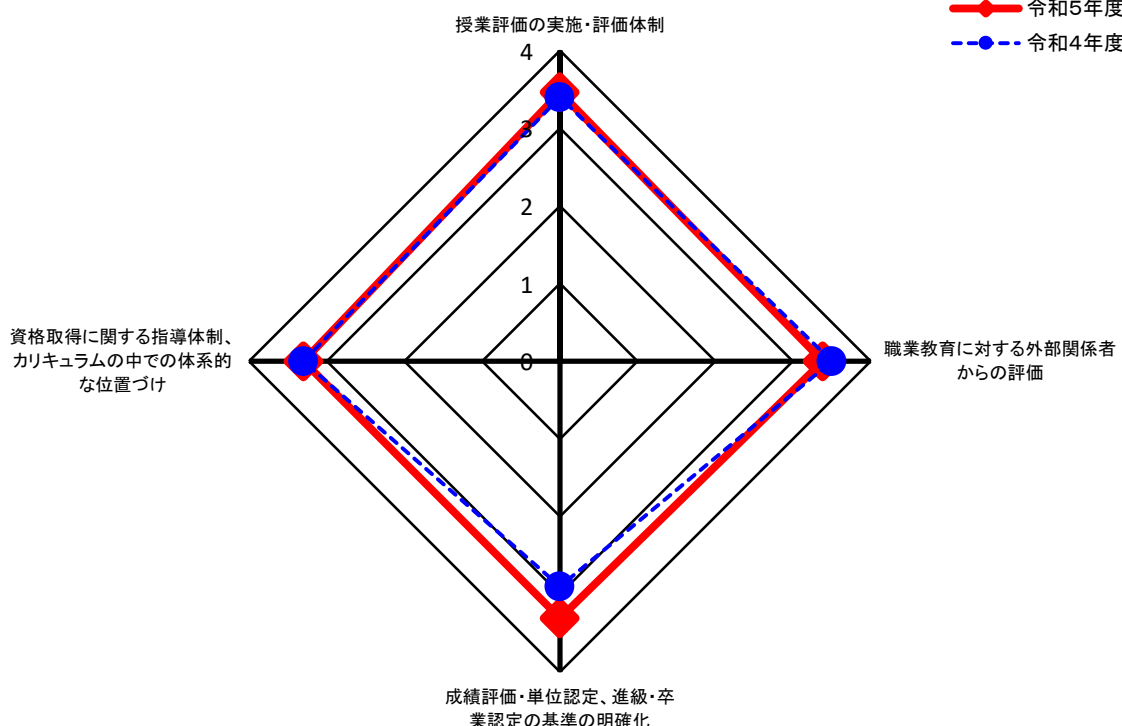
○総平均値は0.1ポイント上がった。2つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは1つの項目だった。

○13の大項目の中でもっとも良い評価結果で、全体を通して概ねよい数値となっている。授業(指導)改善に結びつく公開授業及び学生による授業評価の継続するとともに、更に多くの非常勤講師にもその輪を広げたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎年度当初の「講師会議」の継続実施により、学校・講師間の相互理解を図ることができた。学生の情報共有についても前進することができた。  
専任講師全員の公開授業及び学生による授業評価が定着しており、評価の生かし方を更に検討したい。非常勤講師の協力も増えてきており、一層の呼びかけを行いたい。

◎学習意欲の低い学生への更なる個別相談を進めていきたい。



(3) 教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	2	1	2	0	3.0	2.7
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	0	0	3.0	
関連分野の業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	2	2	1	0	3.2	2.9
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	0	0	3.0	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	0	4	1	0	2.8	2.8
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	0	0	3.0	
職員の能力開発のための研修等の実施	職	0	4	1	0	2.8	3.0
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

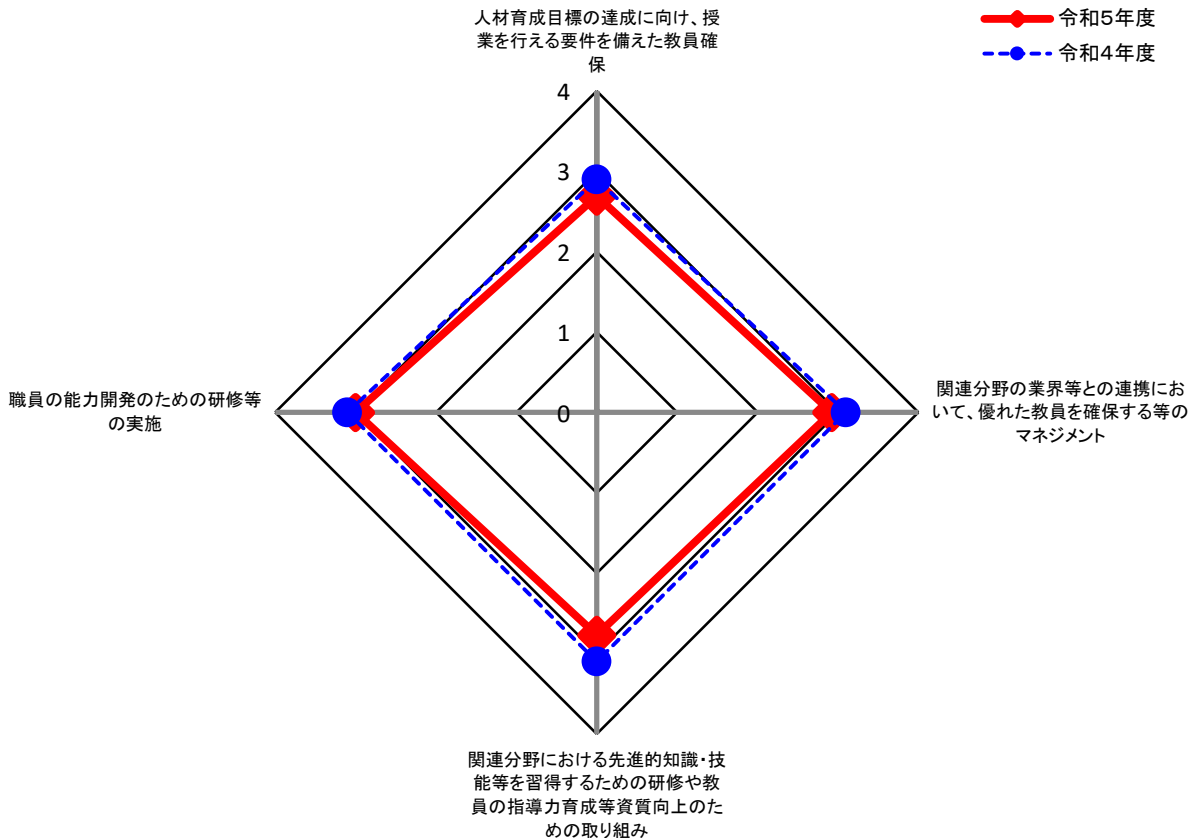
○総平均値は0.2ポイント下がっており、すべての項目で昨年度を下回った。13の大項目の中でワースト3に入っている。

○職員研修会(校内研修)を継続実施することにより、学生理解への学びが深まってきている。それを具体的に結びつけていく取組を進めることが課題となっている。

○外部研修会への参加者は固定化している。専任教員個々の能力を伸ばす研修機会の確保(経済的援助も含め)が求められる。

・評価によって表出した課題と改善策

◎全職員を対象とした外部講師による「学生理解・支援」の研修も6年目を迎え、昨年度から年2回実施することができた。この4年間は、本校の学生・教職員に関わっていただいている非常勤講師による研修で、本校の実態に即した内容で共通理解・認識を深めることができた。また、今年度から、非常勤講師の参加も復活することができた。次年度以降も充実を図りたい。また、研究紀要は今年度は多くの専任・非常勤講師の実践を紹介することができた。本校取組の積極的な発信を継続していきたい。



#### 4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	4	1	0	0	3.8	3.5
	こ	2	3	0	0	3.4	
	介	0	2	0	0	3.0	3.2
資格習得率の向上	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	2	0	0	3.0	2.8
退学率の低減	職	2	1	2	0	3.0	3.2
	こ	4	1	1	0	3.5	
	介	0	2	0	0	3.0	2.4
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	1	4	0	0	3.2	3.0
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	2.9
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	1	3	1	0	3.0	2.7
	こ	0	3	2	1	2.3	
	介	0	2	0	0	3.0	2.7

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.3ポイント以上あがっており、4つの項目で昨年度を上回った。(13の大項目の中で最も向上した項目である)

○今年度は退学者が大きく減少し、「退学者の低減」の評価も0.8ポイント向上した。専任教員の学生への関わり方の変化(改善)が結果につながったと言えるが、更に組織化していきたい。学生との日常的な面談や相談活動を通したきめ細かな対応、保護者との連携等に向けた、組織としての在り方を求めている。

#### ・評価によって表出した課題と改善策

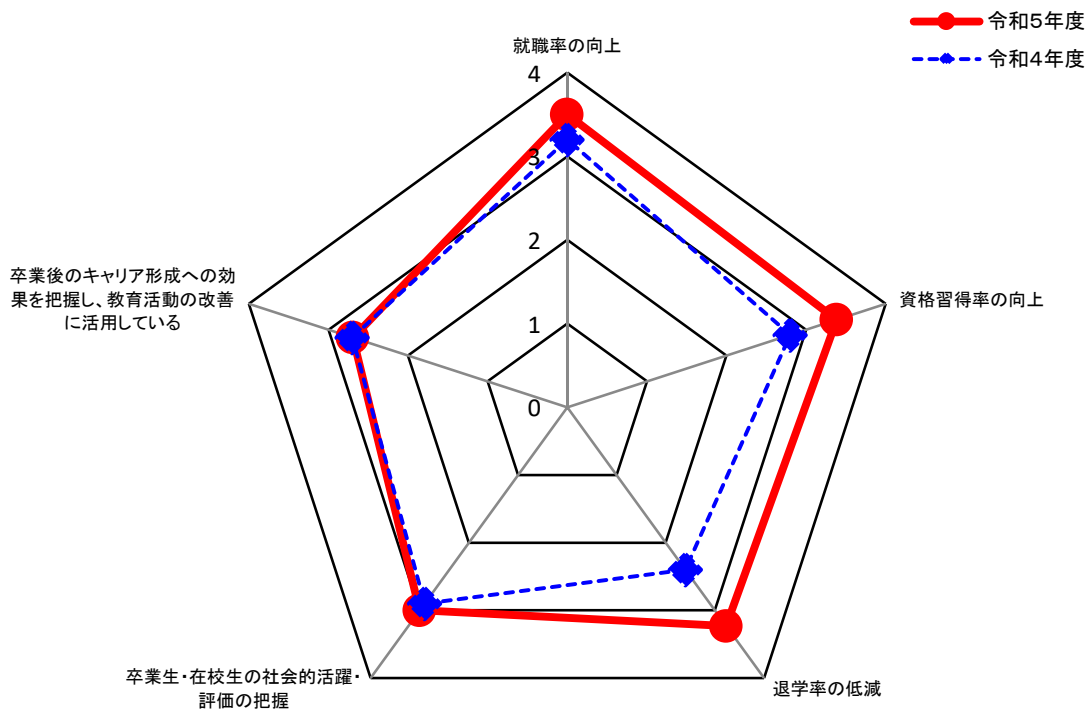
◎令和3・4年度は、退学や欠席・遅刻、授業への意欲の低下などの課題が目立ってきていたが、今年度は、TAを中心とした学生への日常的な働きかけにより改善傾向にあった。今後は「組織(チーム)」としての取り組みを課題として進めていきたい。

◎意識の高い学生を更に引き上げる方策も必要である。卒業後の学校への再訪、再々訪などが評価のあらわれとなる。

◎卒業生の動向の把握に努めていきたい。(同窓会の活用など)

◎退学率は下がってきており、学生一人一人が生き生きと活動している。

◎悩みや困り事を言える学生には、個人的に面談をしていますが、言えない学生には、こちら側から察して声かけをして話を聞いたりする働きかけを大切にしたいと思います。実習前後の指導も含めて、学生と面談する機会を作って、思っている事、考えている事の声拾う事が退学率の低減につながるかも知れません。





## 5 学生支援

### (1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	4	1	0	0	3.8	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	
学生相談に関する体制の整備	職	2	3	0	0	3.4	3.1
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	1	1	0	2.5	
学生に対する経済的支援体制の整備	職	2	3	0	0	3.4	3.2
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	
学生の健康管理を担う組織体制	職	1	4	0	0	3.2	2.8
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	0	2	0	0	3.0	
課外活動に対する支援体制の整備	職	3	2	0	0	3.6	3.2
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	
学生の生活環境への支援	職	1	3	1	0	3.0	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント上がっており、5つの項目で昨年度を上回った。(13の大項目の中で2番目に向上した項目である)

○「学生相談体制」に係る項目が0.3ポイント向上した。小規模校である良さを生かし、学生への声かけ、相談、支援等を更にきめ細かく丁寧に進めていく体制づくりを進めていきたい。

○今後も、学生が学業や生活など多方面にわたる相談を気軽にできる温かな雰囲気作りを大切にするとともに、教職員から学生への積極的アプローチに取り組みたい。

### ・評価によって表出した課題と改善策

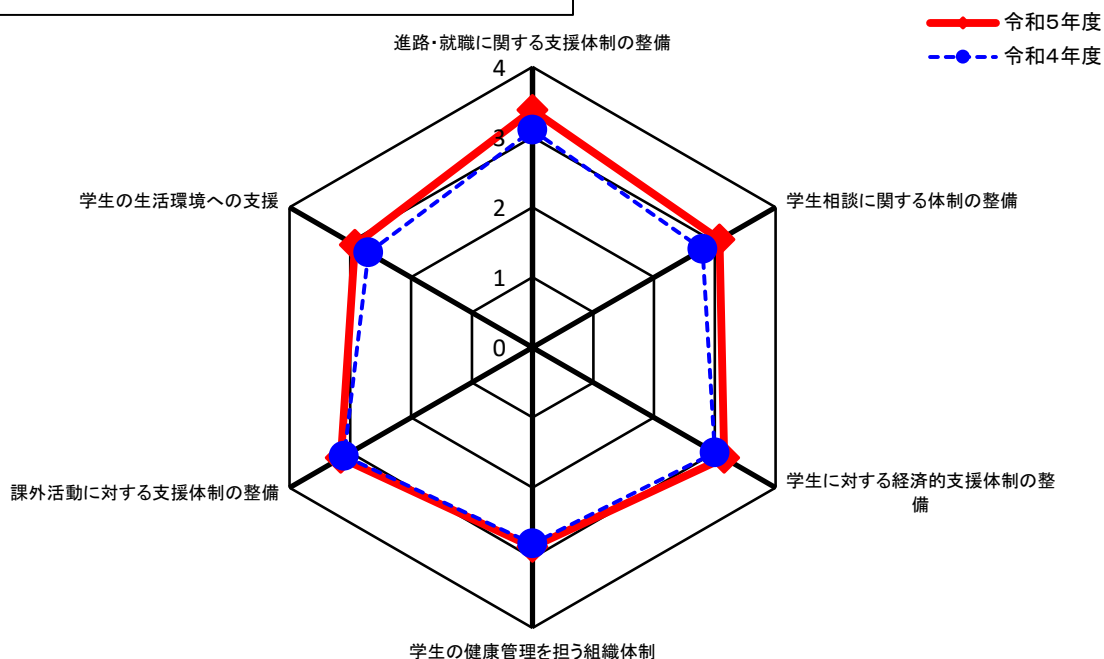
◎様々な課題を持つ本校の学生に対する支援は必要不可欠であることから、次年度も知恵を出し合い、「組織(チーム)」として前向きで建設的な対応を考えていきたい。

◎今年度から「学校への学生の思いや願い、意見、提案等」を気軽に述べる事ができる機会(目安箱)を学生会の発案で取り組んだ。施設・設備も含め様々な面で改善された事項があり、学校の活性化に大きく貢献したと思う。

◎細かな相談・支援体制の更なる充実。

◎健康管理や地域の病院・保健関係との連携がもっとあればいいと思う。

◎今年度は、年度初めに学校全体で学生のフォローにあたっていくこと、教職員誰に相談してもよい環境を明示してはじまったが、意識、方向性が統一されていないところがあり、課題となっている。



(2)連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	1	4	0	0	3.2	3.1
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	2.9
卒業生への支援体制	職	1	3	1	0	3.0	2.9
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	2.9
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	1	3	1	0	3.0	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	3.1
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	2	1	2	0	3.0	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	3.1

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であった。1項目で昨年度上回り、下回ったのは1項目であった。

○高校からの情報(関わり方のアドバイス等)収集や、学生・保護者との面談(入学前も含む)など、取組の前進が見られた。しかし、評価としては依然として高い数値にはなっていないので、更に意識的・積極的に取り組みたい。

・評価によって表出した課題と改善策

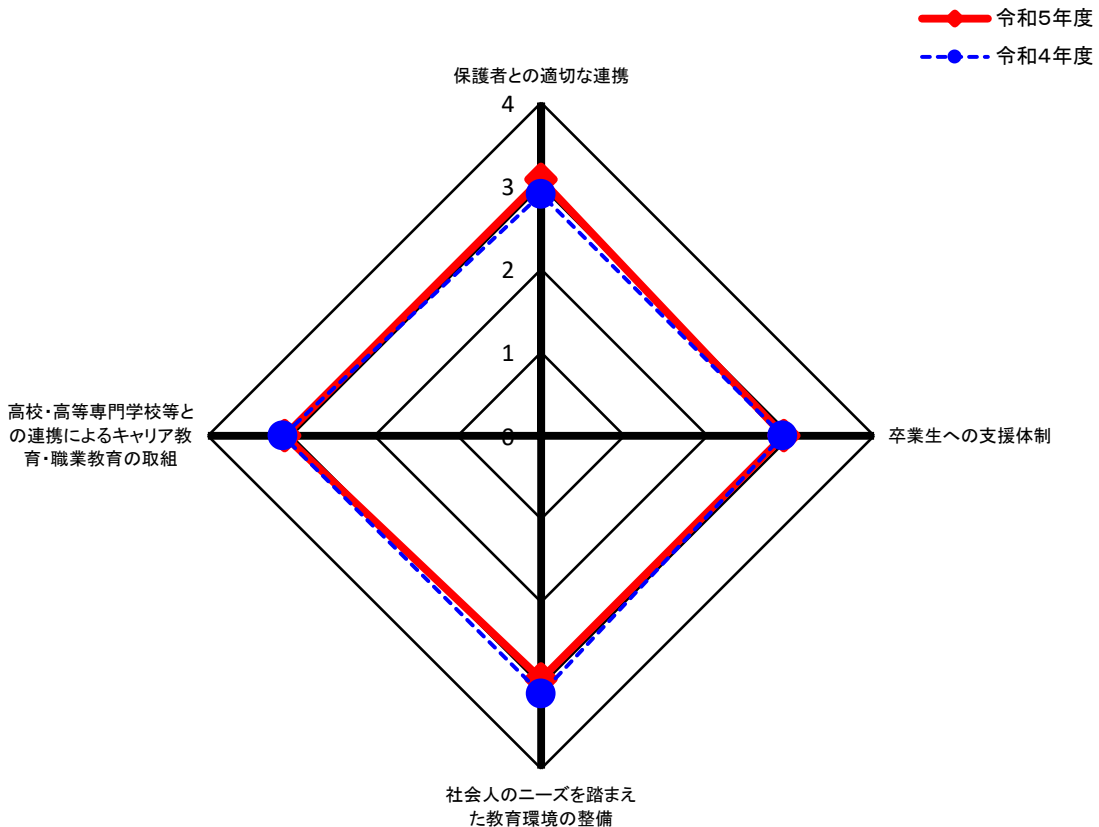
◎学生との定期的な面談の実施はもとより、全保護者との面談を少なくとも年1回は実施し、連携強化に取り組みたい。特に、欠席・遅刻などの課題を持つ学生については、早い段階から保護者への情報提供を行い、タイムリーな面談を行いたい。

今年度は、「学生が自分の良さや持ち味を發揮できるように」という視点で、高校からの情報提供を全学生に広げた。次年度も継続実施していきたい。

◎他校との連携。卒業生が何度も訪れたい学校。

◎連携体制をより一層組織的に行えればよいと思う。

◎保護者とは早目早目の対応、情報共有をはかっていた。





6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている	職	1	2	2	0	2.8	2.4
	こ	0	2	2	2	2.0	
	介	0	1	1	0	2.5	2.5
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している	職	3	2	0	0	3.6	2.9
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	0	0	3.0	3.1
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	職	0	3	2	0	2.6	2.6
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	0	2	0	2.0	2.6
防災に対する体制の整備	職	0	4	0	1	2.6	2.5
	こ	0	3	2	1	2.3	
	介	0	1	1	0	2.5	2.8

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント弱下がっており、3つの項目で昨年度を下回った。(13の大項目の中で最も低い数値になっている項目である)

○教育環境向上の予算立ては難しい状況にはあるが、釧路市の助成も活用しながら「設備の充実」に計画的に取り組みたい。短期、中長期的な計画的改修、改善を明確にして進めていきたい。

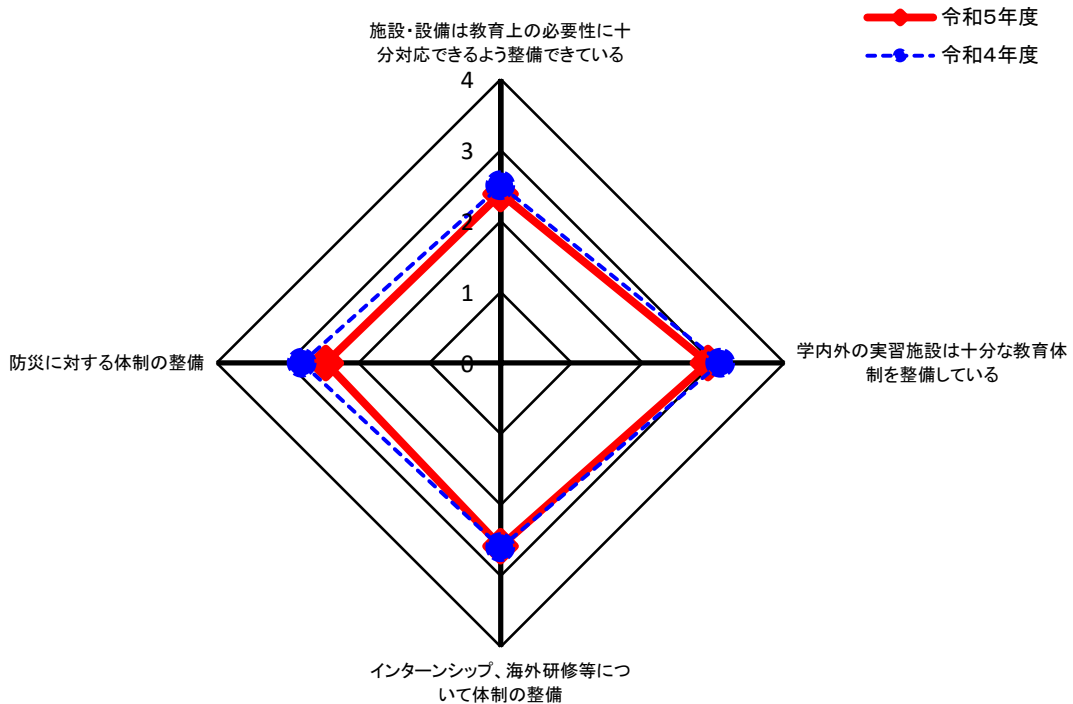
○専任教員の人数や勤務形態の関係から、災害時の避難誘導・安全確認等(避難訓練を含め)どう進めていくか、今後とも検討を続けていきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎施設・設備の修繕・整備の課題もあるが、「古いけれど清掃が行き届き、整理整頓がなされている学校」「校舎を大切にしている学生」に取り組むことはできるので、次年度も学生・教職員が心を一つに素敵な学校づくりに取り組んでいきたい。

◎演習のための施設・設備を整えていきたい。

◎施設内で気になる箇所の手入れがなされているが、更に住みよい環境づくりに取り組みたい。



7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動は適正に行われている	職	3	2	0	0	3.6	3.2
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	1	0	0	3.5	
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	
学納金が妥当なものになっている	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	

網掛けは前年度平均

○2つの項目で前年度を上回り、1つの項目が下回った。総平均値は若干上がったものの、大きな変動ではなかった。(大項目13の2番目に高い数値となっている)

○広報を中心に、ホームページ、学校訪問など様々な場や機会を通じて学校の教育活動や魅力発信を積極的に進めており、今後も充実を図っていききたい。

○学生募集(入学生増)に教職員一人一人がどう関わっているのかが課題であるとの共通認識に立ち、取り組んでいきたい。

○コロナ禍の中で「オープンキャンパスでの参加者と本校学生との会話・交流の場の設定」を中断してきたが、今年度は復活の方向へ進むことができた。コロナ禍前の進め方にさらに近づけ、本校学生の力を大いに活用したい。

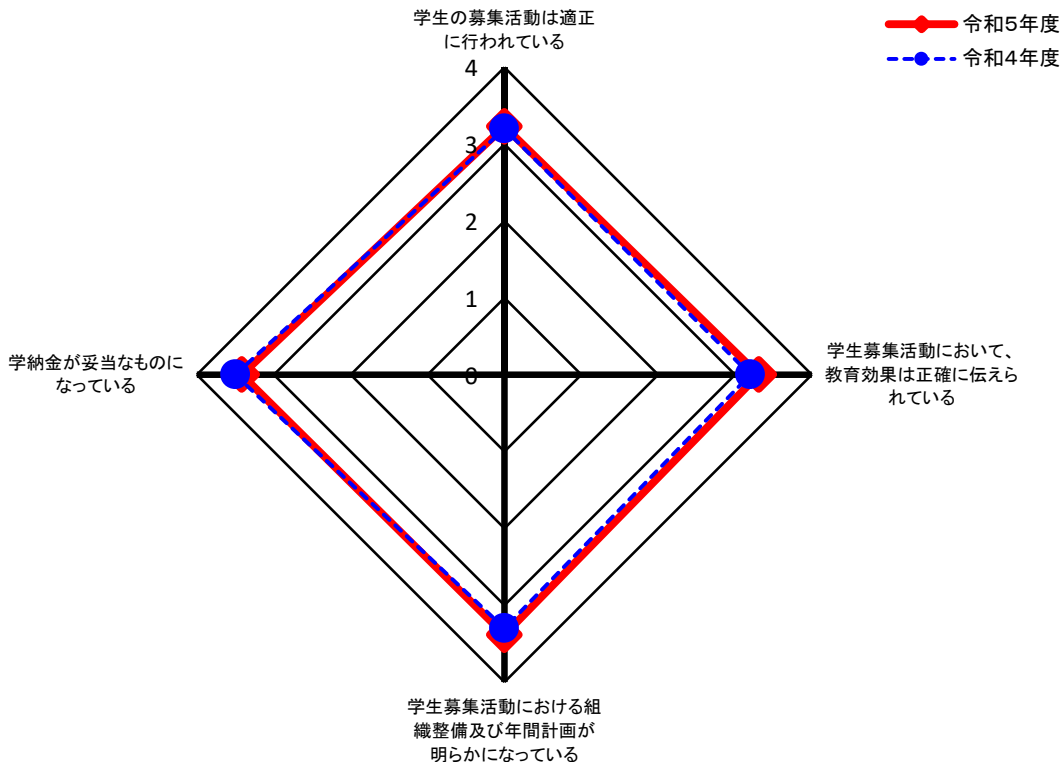
・評価によって表出した課題と改善策

◎広報担当者の創意工夫によりホームページ充実(教育活動・学生の頑張りの紹介等の発信)を図ることができた。  
高卒生激減の中、本校の入学者は減少傾向にある。広報担当者だけでなく、教職員一人一人が高校訪問やオープンキャンパス等において本校の良さを発信するとともに、改善策や自分にできることを考え、取り組んでいきたい。

◎本校在学生参加によるオープンキャンパスは評判が良く、リピーター・入学希望者増につながっている。更に充実して、本校の「こころ」を伝えていきたい。

◎インスタなどSNSにも取り組んでいるが、更に取り組めることを検討していきたい。

◎学生募集は計画的に行われており、工夫も行われている。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している	職	1	2	2	0	2.8	2.8
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	0	0	3.0	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	職	1	2	1	0	3.0	2.8
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	2	0	0	3.0	
財政について会計監査が適正に行われている	職	3	2	0	0	3.6	3.1
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	2	0	0	3.0	
財務情報公開の整備はできている	職	2	2	0	0	3.5	3.0
	こ	0	3	2	0	2.6	
	介	0	2	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

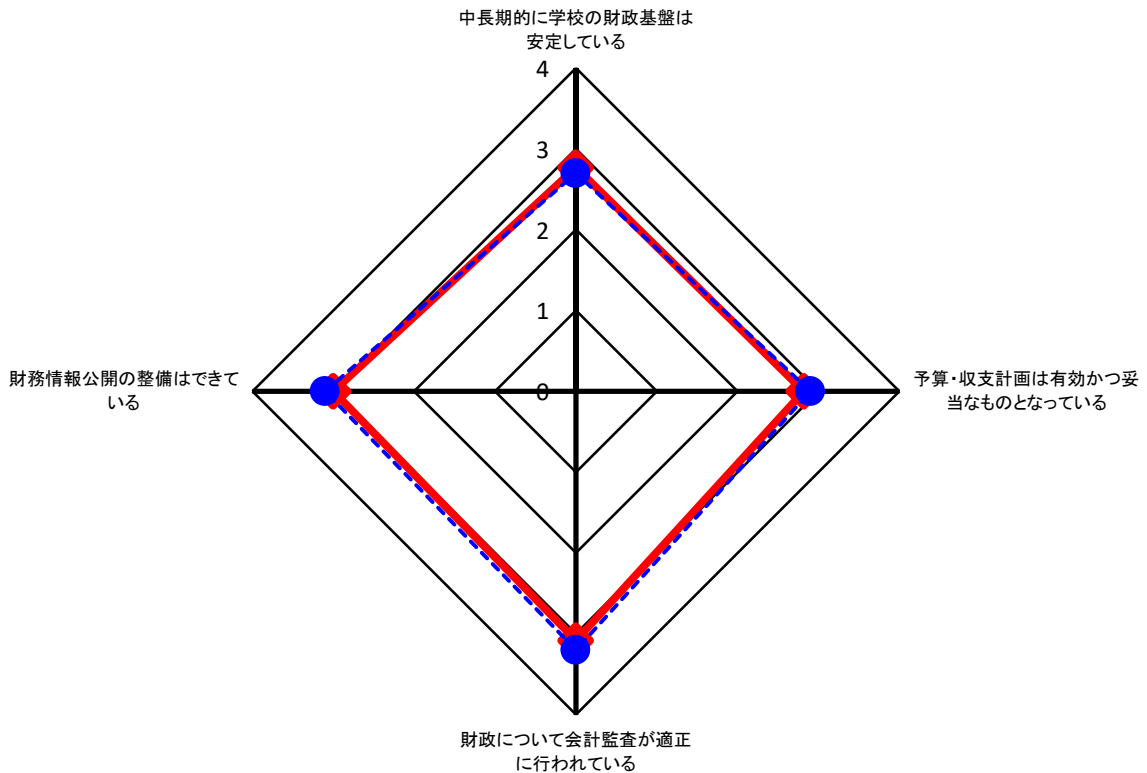
○3つの項目で前年度を下回り、1つの項目が上回った。総平均値は若干下がったものの、大きな変動ではなかった。

○財政基盤の安定に大きく関わっている退学者数は減少したが、18歳人口の激減による学生数の確保が難しい状況になっている。どのような取組を進めるか、全職員で知恵を出しあいたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎学生数が増えること、退学率の低減が財政基盤の安定につながることから、前項「7 学生の受け入れ募集」に記載されて取り組みを充実していきたい。

—●— 令和5年度  
-●- 令和4年度



9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	職	2	3	0	0	3.4	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	2	0	0	3.0	3.3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	職	2	3	0	0	3.4	3.2
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	3.2
自己評価の実施と問題点の改善を行っている	職	2	3	0	0	3.4	3.0
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	1	1	0	2.5	3.1
自己評価結果の公開	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	3.4

網掛けは前年度平均

○2つの項目で前年度を下回った。総平均値は若干下がったものの、大きな変動ではなかった。

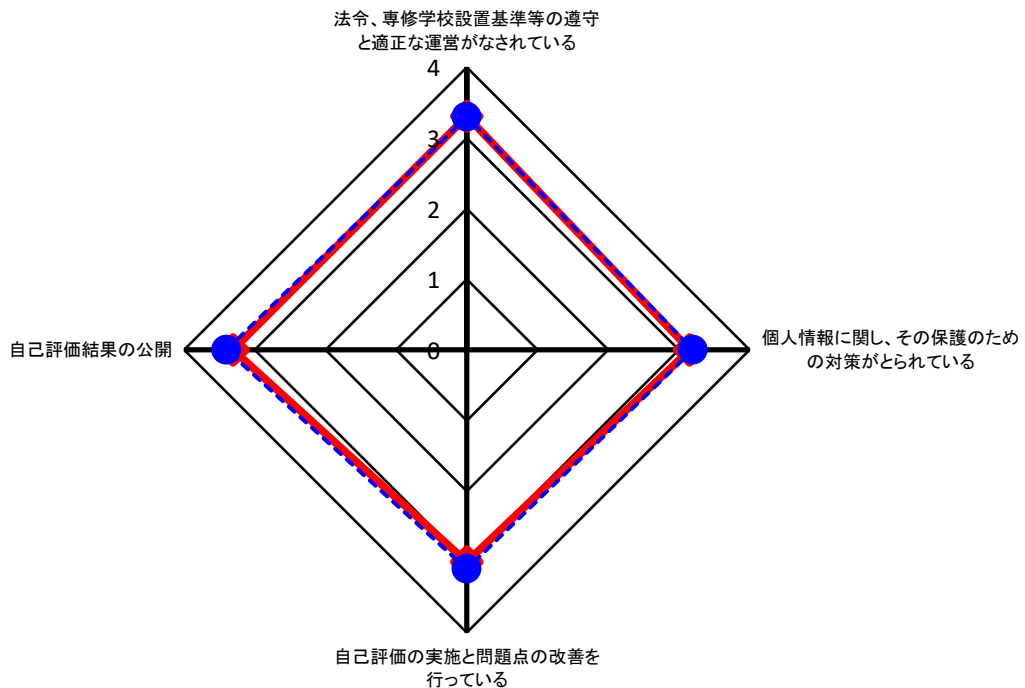
○改善に向け、今後も一層の努力を続けたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎法令遵守への努力がみられる。

◎問題点の改善について、少しずつ取り組まれていると感じる。できるところから、ひとつずつ改善していくとくみが続けられればと考える。

—●— 令和5年度  
-●- 令和4年度



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	職	4	1	0	0	3.8	3.4
	こ	1	4	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	
学生ボランティア活動を奨励、支援している	職	3	2	0	0	3.6	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	0	0	3.0	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している	職	2	2	1	0	3.2	3.1
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	0	2	0	2.0	
教育訓練の受託等を積極的に実施している	職	3	2	0	0	3.6	3.4
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	1	0	0	3.5	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であった。2項目で昨年度上回り、下回ったのは1項目であった。

○13の大項目の中で上位(3番目)の評価結果で、全体を通して概ねよい数値となっている。学校祭の地域公開など、コロナ禍前の状況に戻すことができるよう進めていきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

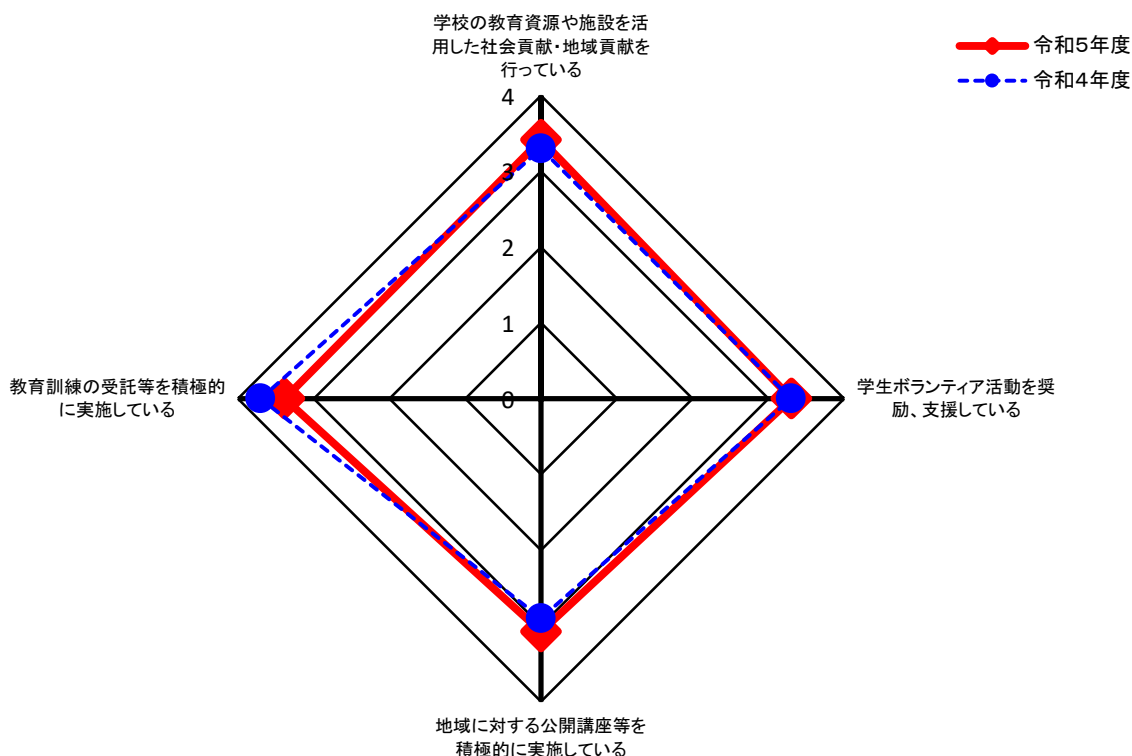
◎社会貢献・地域貢献については、学校として意識的に取り組りくみ、これまで高い評価をいただってきた。学生会の活動として、昨年度に引き続き地域町内会と連携した地域清掃を実施することができた。また、地域住民を招待しての学校祭も4年ぶりに開催することができ、学生会が大活躍した一年であった。感染症の扱いが変わったことから、次年度はどのような取組(学校祭、釧路の自然再発見シリーズ、地域における教育活動の発表の場など)ができるかを考えていきたい。

◎地域における講演活動は一定の評価を得ている。

◎コロナ禍の中で開催を中断している公開講座(地域の人も参加できるもの)の再開を検討したい。

◎外部との連携や公開講座、教育訓練も妥当に行われている。

◎地域に働きかけるとりくみを工夫しとりくむことで、学生の学校生活の充実にもつながると考える。



## ・その他の課題(全体的に)

- ◎学生募集の方策について、地方自治体との連携や、地元企業・団体の後援、報道の取組などを進めたい。
- ◎一人一人を大切に丁寧な教育活動が行われており、もっとアピールしてもいいのではないかと。
- ◎ピアノの個人指導が十分保障されている。

## ・考えられる改善策

- ◎図書室の整備に取り組みたい。

## ※自己評価結果について

- 学校自己評価も回を重ね9回目の実施となりました。今年度は大項目13のうち7項目が前年度の平均値を上回りました。そのうち、0.1ポイント以上増の大項目は「4 学修成果」「5 学生支援(1) 支援体制」「3 教育活動(2) 指導・評価」で、「4 学修成果」は0.3ポイント以上上回りました。「4 学修成果」の中では、「資格取得率の向上」と「退学率の低減」の数値が大きく向上しています。
- 前年度の平均値を下回ったのは4項目で、そのうち、0.1ポイント以上減の大項目は「3 教育活動(3) 教員・研修」「6 教育環境」でした。
- 大項目で平均値が最も高かったのは「3 教育活動(2) 指導・評価」で、続いて「7 学生の受け入れ募集」「3 教育活動(1) 教育課程」「10 社会貢献・地域貢献」などとなっています。また、3未満の大項目は、最も低かったのが「6 教育環境」。続いて「3 教育活動(3) 教員・研修」、「8 財務」などとなっています。最高値と最低値の差は、0.7ポイントでした。
- 全項目62で、前年度の平均値を上回った項目は27。下回った項目は18となっています。
- 全項目62の平均値は、前年度を上回りましたが、ほぼ同数値でした。
  
- 今年度は下記事項を特に重視すべき課題と位置づけ取り組んできました。「退学者減」など向上傾向が見られたものもありますが、次年度も下記事項を課題として継続的に進めていきたいと考えています。
  - ①ティール運営への対応(充実)
  - ②授業評価(公開授業)の継続(非常勤講師についても)
  - ③全職員(非常勤講師も含む)対象の研修継続
  - ④組織としての学生支援への取組(外部の専門的な力の活用/退学者減への取組)
  - ⑤学校の魅力発信・学生募集
  - ⑥卒業生の力の活用
  - ⑦地域との結びつき(地域貢献・活動)
  - ⑧保護者、高校等との連携
  
- 残念ながら、新型コロナウイルス感染症の状況は収束の方向には向かっていませんが、昨年5月から感染症の扱いが変更になり、教育活動もコロナ禍前の状況とまでは行かないものの、多くが可能になってきました。園や施設の方々のご協力に心から感謝を申し上げます。各評価の数値や意見について(今後実施する学校関係者評価の結果もあわせて)教職員全員が真摯に受け止め、次年度は本校教育が更に充実するよう、その改善策や方策について考え、実践していきたいと思っております。